

「わたしにあるもの、イエスキリストをあげよう」

使徒の働き 3章 1～10節

聖書は、神の御子である キリストが、私たちと一緒にいてくださると、約束しています。私は、いつも、あなたと共に、にいます、とイエス様は、今ここにいる私たちの 心の中に留まられ、勇気づけられます。このように、今の私たちは、自分にあるもの、何を大切にするかで、その人の人生は決まってきます。本日は、聖書から、私にあるもの、を焦点にしてお話をしたいと思います。

本日の箇所は、エルサレムにある神殿の中に入り(では入り)する、一つの門で起きた出来事です。3節をご覧くださいと、ペテロとヨハネが、神殿の中に入るために、美しの門を通りかかります。ペテロは、生まれつき足の不自由な男に6節「私の持っているものをあげよう。ナザレの人、イエスキリストの名によって、歩きなさい。」と、言います。すると、その言葉とおりに男の足は、癒されます。ここで大切なことは、ペテロの言った、わたしの持っているもの…イエス・キリスト、という御名、イエスのお名前についてです。このイエス・キリストという御名には、十字架の死からよみがえられたキリスト、つまり、復活された意味が、こめられています。確かに、6節で、ペテロは、「ナザレの人、イエスキリスト」とナザレの、イエス様の出身地を強調しますが、実は、聖書を読み進めていきますと、イエスを死者の中から復活されたお方です、と紹介しています。実は、この美しの門の出来事から数週間前に、このエルサレムの同じ場所で、十字架刑の生々しい光景、イエスの十字架の出来事がありました。このイエスという御名は、すでに町中に、知れ渡っていました。今ここにいる 私たちにとって、復活なされた主イエス様は、重要な意味に

なります。なぜなら、イエス様は、罪と死に勝利されたからです。罪に打ち勝たれたというのは、今の私たちにとってどうすることもできない問題、霊的な戦い、試練に直面するとき復活の主イエス様が、必ず救い出さし、乗り越えさせてくださる、これが復活の主です。このことをペテロは、一言で言い表わすのが6節:「私の持っているもの イエスキリスト」になります。この「私の持っているもの」とは、「私に住まれる復活のキリスト」または「私のうちに生きてくださる復活のイエス様」もしくは「私の存在さえ輝かすキリスト」を意味します。

では、本日のみ言葉「わたしの持っているもの イエス・キリストをあげよう」と宣言した後は、どのようなことが起こったのでしょうか。さらにこのみ言葉は、今の私たちにも向けられています。

第一に、【わたしの持っているもの・イエス・キリストをあげよう】というみ言葉からイエス様は、今の私たちの心に 向かいます。今、あなた の 状態は、どうですか。今、あなたは、どんな霊的な状態にいますか、と、イエス様は、人間の心の弱さ、貧しさに必ず、答えられます、これが救いです。救いとは、本来いる べきところ ではないところから、いる べきところに 移される、ことを 意味します。今の私たちも、罪の奴隷から、永遠のいのちへ 移されています。足の不自由な男にとっての救い、何でしょうか。彼にとっての救いは、今、美しの門 にいる のではなく、そこから 神殿の中に移される、こと言います。実は、この男は、他の人たち と、様子が 違います。毎日、美しの門の 前で 座っていますこの男、だけは、みんなと一緒にエルサレム神殿の中に 入ろうとする 様子もありません。むしろ、施しを求めます。

その理由は、今、現在から、3000 年も前、この男にとっては、1000 年前の旧約時代、ダビデが 30 歳の時に、さかのぼります。舞台は、エルサレムです。当時、エルサレムの町を所有していた民族は、異邦

人 エブス人という民族でした。そこにダビデの登場です。ダビデは、軍隊を率いて、エブス人から神の都エルサレムを 取り戻すためにやってきます。この戦いは、エルサレムの地中、地下道で展開します。エブス人は、洞窟の高い所から、ダビデの軍勢を待ちぶせできる、安全な場所を確保します。そしてエブス人たちは、ダビデと軍隊をからかい始めます。「おいダビデの軍隊たちよく聞け。俺たちエブス人は、お前たちを簡単に倒すことができる。俺たちが、もし例え、足の不自由なものになったとしても、きっと、お前たちを、簡単に けちらしてやることができるぞ。 」と言い放ちました。突然、ダビデは侮辱を感じ、馬鹿にされます。この戦いの結果、ダビデの軍隊は打ち勝ちました。しかし戦いの決着がついても、ダビデだけ、怒りがおさまりません。なぜなら、ダビデにとって、ついさっきエブス人から“我々エブス人が、もし仮に、足の不自由なもの になったとしても、お前たちを簡単に、けちらしてやることができるぞ 」と言われたことが残っていたからです。ダビデの怒りは頂点に達して、その矛先が、足の不自由なものに向きます。そこで、ダビデは命じます。「足の不自由なものは、今後一切、エルサレムの神殿に入れてはならない 」と、宣言してしまうのです。以上の出来事は、第2サムエル記 5 章 6 節から 10 節、第一歴代 11 章 4 節以下に書かれています。

このように、ダビデの命じたエルサレムの神殿への立ち入り規制は、本日の使徒の働き 3 章の話にまで続くのです。ですから、ここで一気に、美しの門に座っている 男の正体があきらかになります。足の不自由な男は、ダビデの『足の不自由な者は、宮に入ってはならない』という、規定によって、ずっと、締め出されてきました。彼だけに、その門は、完全に閉ざされ、神殿の中に入れられないのです。こうした大きな疎外感を受けたら人はどうなるでしょう。大抵の人は、強い劣等感を感じます。私だけ、排除されている

と、だんだん心を閉ざし、その闇も、深くなります。実は、彼の年齢は、40歳あまりと4章22節で紹介されます。救いは、一体どこから来るのでしょうか。

しかし、この真っ暗闇の男の心に、大きな大きな光が差し込んでくるのです。それが本日のみ言葉「私の持っているもの、イエスキリストをあげよう。さあ、立ち上がり、歩きなさい。」という言葉によって、イエス様は、直ちに、この男に目掛け、救い出されるのです。足の不自由な男は、神殿の中に、出入りできるようになります。これは、今の私たちにもあります。この男のように極端ではなくとも、今の私たちの人生の中に劣等感を感じたり、疲れ果ててしまうことがあります。仕事や自分の将来について他の人よりも私は、劣っている、と思ったり人との関係、夫婦同士の中で、自分は、愛されていない、と傷ついてしまったり、またある人は、過去の失敗、過ちを現在に、ひきづり、無力さを感じたりします。またコロナの影響から、家族同士の中で、つい神経質になりすぎてしまったりします。しかし 聖書は、今の私たちに約束します。ヘブル13章節『わたしは、決して、あなたを見放さず、あなたを見捨てない。』とあるように主イエス様は、立ち直らせてくださいます。

第二に、【 わたしの持っているもの・イエス・キリストをあげよう 】という言葉からイエス様は、今の私たちの心のうちに住まわれるということです。イエス様が、私たちの中に住まわれる、とは、神の御子である尊いお方が、私たちを通して「あなたは、私の存在を表しています」と、神ご自身の存在を示し、証するものにしてくださる、ことを意味します。今、クリスチャンである私たちは、この地上でその役割を担っています。美しい門にいる男も同じです。本日の箇所全体が、そのことを伝えます聖書は、冒頭でこの男についての紹介

を次のようにします。彼は、生まれつき、足の不自由なもの、施しを求める者、名前のないもの、という孤立、孤独を思わせる紹介をします。しかし、「わたしの持っているもの・イエス・キリストをあげよう」という宣言から男の紹介する仕方が、大きく変わっていきます。彼は、「神殿の中に移されたもの」「神と交わるもの」つまり、この「男の内側に復活のキリストが、宿っている」、紹介になります。ですから3つの神様の御業が、この男を通して現れます。一つ目、歩き出します。彼は、生まれてはじめて歩きます。二つ目、エルサレム神殿の中に入ります。堂々と、大胆に、神殿に向かいます。三つ目、神の御子イエス様と出会います。主イエス様は、彼の心のうちに、留まりました。このように男は、神様への応答を身体全体、足の指先までを使ってします。踊り上がり、喜び、歩き回って大合唱、天にまで届きそうな賛美を捧げます。今朝の礼拝こそ、私たちにとって神様との交わりです。復活のキリストは、この礼拝を通して、私たち一人一人のうちに留まります。

「私にあるものイエスキリストをあげよう」という本日のみ言葉を通して復活のイエス様ご自身は、

第一に、「わたしは、あなたに愛を注ぐことを惜しみません」、と今の私たちに会いに来ます。

第二に、復活のイエス様ご自身は、「あなたは、この私の存在を示し、証しています」と語り、と、私たちの

中に居続けます。今、ここにいる私たちは、神様との深い交わりから、“わたしにあるもの主イエス様”が生

み出され、さらに、“わたしにあるもの”を、他の人に生み出すことができます。

お祈りいたします。

今日、『わたしあるもの、イエスキリストをあげよう』というみ言葉から、私たちは、復活なされたイエス様の

力を受けました。ありがとうございます。イエス様が、私たちに住まわれることをいつも感謝し、さらに「わた

しにあるもの イエス様」を他の人に、生み出すことができますように主イエス、キリストの御名で祈ります。